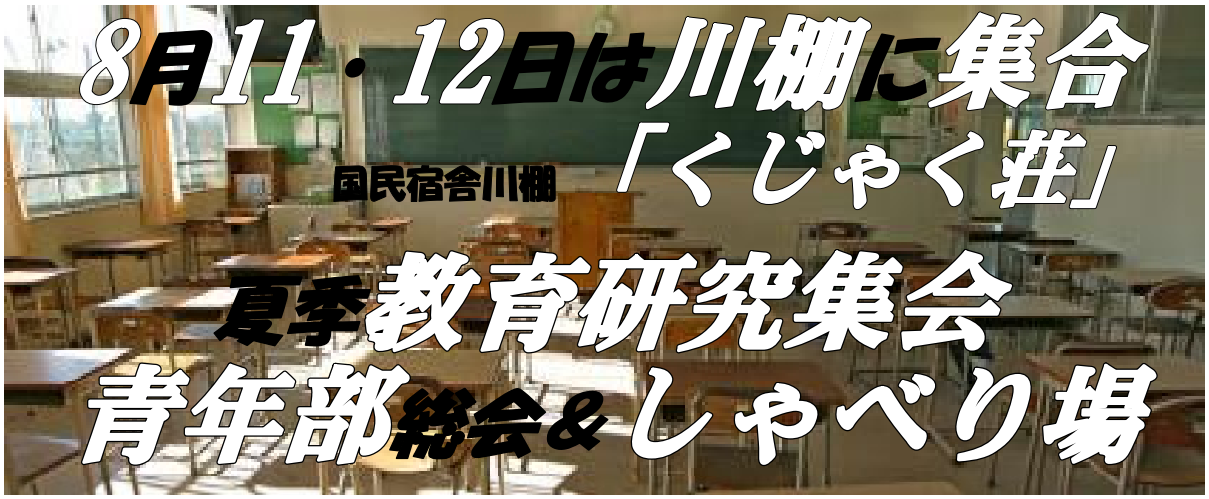
長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 小田 誠
購読料一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp



8月11・12日は川棚に集合
「くじゃく荘」
国民宿舎川棚
夏季教育研究集会
青年部総会＆しゃべり場

教研の夏がやってきました。例年通り、教育講演会と4つの領域別分科会を中心に、夕食交流会も含め、11日（山の日）の午後から12日のお昼まで、いつもの「くじゃく荘」で開催します。祝日と土曜日となりますので、より多くの参加を期待します。

「発達障害と青年期教育～困っている青年たちのホントの気持ち～」の演題で鳥取大学の三木裕和先生の記念講演を予定しています。三木先生は、特別支援学校で30年以上特別な支援を要する子どもたちの教育を実践し、現在は大学で教鞭をとられています。現場に根ざした、子どもの実態、要求にもとづいた教育が語られると期待しています。

今回の講演は、ここ数年実施した青年教職員へのアンケートで一番学習したいとの声が多かったテーマです。きっと青年教職員の願いに応えるものになると信じています。

今年の夏季教研は、記念講演を受けたあと、分科会と並行して、青年部総会と「しゃべり場」を並行して開催します。若い先生方に多く集まって、語りあってもらいたいと願っています。もちろん、夕食交流会は、全体で行います。老いも若きも子どもを、教育を中心において語り明かしましょう。

二日目は、例年通りにもどります。青年教職員も、平和・人権教育、生活指導（生徒会、クラスづくりなど）、不登校（特別支援含む）、民主的職場（勤務の現状など）の四つの分科会に分かれて参加して、学びを深めていただきます。すぐに申し込みましょう。

3人の織り姫

伊良林保育園の年長さんのかわいい織り姫3人から七夕飾りが届きました。

願い事の短冊に「組合員が増えますように」と書いて飾ろうかと思いましたが、「神頼み」ではいけない、自分たちの力で拡大を実現しなければと思い直し、子どもたちの健やかな成長を祈願することにしました。

核兵器禁止条約採択
「ヒバクシャ国際署名」をすすめる県民の会が「歓迎のつどい」

歴史的な日を謳う長崎歌声協議会

7月7日、核兵器を違法化する核兵器禁止条約が、ニューヨークの国連本部での条約制定交渉会合で、122カ国の賛成で採択されました。広島・長崎への原爆投下から70年以上を経て、初めて核兵器の禁止を明文化した国際条約文書が誕生しました。条約は、核兵器の製造や所有、配備などに加えて、「使用の威嚇」も禁止し、核兵器による威嚇に依存した安全保障論（核抑止力論）を否定する内容になっています。この条約の採択を受けて、日本被団協が『「ふたたび被爆者をつくるな」と願い、訴え続けてきた原爆被害者にとって、核兵器禁止条約の制定は、誠に大きな喜びです』とする声明を発表するなど、被爆者をはじめ、核兵器廃絶を求めて運動してきた多くの人々から歓迎の声があげられています。

谷口稜曄さんは病室より

長崎においては、7月8日、「ヒバクシャ国際署名」をすすめる県民の会が、「核兵器禁止条約歓迎のつどい」を被災協会館で開催し、被爆者や市民が150人参加しました。「つどい」では、条約採択に対する被爆者の思いが語られるとともに、ニューヨークでの活動に参加した長崎の代表団からの報告や、今後のとりくみについての意見交換が行われ、歴史的な日を歓迎すると同時に「核兵器のない世界」実現のための被爆地からの決意を表明する場となりました。

国民レベルでの歓迎の声とはうらはらに、日本政府は、米英仏の核保有国などとともに「条約に署名しない」とする方針を、条約採択当日に明らかにしました。こうした日本政府の方針を変えさせるためにも、「ヒバクシャ国際署名」を大きく広げていくことが求められています。

教育全国署名スタート集会
長崎で3万筆、高教組で1万筆を目標にとりくもう

集会のオープニングのダンスパフォーマンス

「2017年度ゆきとどいた教育を求める全国署名　スタート集会」は、7月7日におこなわれ、高教組から1人が参加しました。まず総務省要請行動（5人）に参加しました。参加したメンバーがそれぞれに地域でかかえる問題点について説明し、地方交付税増額等を要請しました。対応した総務省職員は「大臣に伝えます」と答えましたが、メモを取っては消していた姿に一抹の不安が残りました。

午後、「星陵会館」で全国署名スタート集会が行われました。基調報告で約4億5千万筆を集約し、教育条件整備に大きな役割を果たしてきた。今年度は、①私立小・中学生への就学支援スタート、②大学生への給付型奨学金の創設、③幼稚園の就園奨励費の前進、④奨学のための給付金の前進、⑤私学関係予算の増額、⑥各県の私学学費減免補助制度の前進など、運動が築いてきた『教育の無償化』が前進した」ことが報告されました。ミニシンポジウム、各県のとりくみ紹介の中でもそれぞれの意見が表明され、最後に各都道府県の目標・一言アピールが行われて集会は終了しました。長崎は目標数を公立1万筆、私立2万筆で合計3万筆と表明してきました。この目標数を突破するようがんばりましょう。

各都道府県の目標を掲げ、決意を表明

定期大会第2号議案（運動方針）の討論の概略

組織強化・拡大、職場活動活性化

砂田代議員　長工全

新分会長です。昨年度の教員採用試験学習会に参加した2人の講師の先生が見事採用試験に合格しました。1人は昨年度途中で組合に加入され、4月から長崎市内の大規模校で勤めています。1人は4月から長工全日で新規採用となり、加入しました。また、全教共済にも3人の加入があり、カステラをいただき、みんなでおいしく食べました。

鈴木代議員　鳴滝夜

再任用短時間勤務だが、手を挙げて分会長になりました。支部の分中会議の連絡が、メールで行われていますが、先日はメールを開く時間がなく、分中会議の開催に気付かず欠席しました。先日、「スノーデン」という映画を観ました。電子データがいとも簡単に盗まれるかわかりました。組合の連絡は、アナログで送ってもらうことを提案します。

濱本代議員　佐中夜

昨年度初めの3人分会から5人に増え、今年の4月からは6人分会になりました。現在3人に声かけを継続中です。考査期間中の校外巡視を一緒にした先生に勧誘したとき、組合活動に関心はあるけど大学生と院生の教育費の負担が大きく逡巡しているという話しでした。すぐに加入は実現しないけど、声かけ対話を続けていきます。

錦戸代議員　西陵

ゆいまーるの活動報告で若い方の報告に励まされた。昨年の夏の民主的職場の分科会では権利を改めて学習した。年に3回の教研に若い先生の参加を実現したい。若い先生は「初めての担任」などで悩みをもっている。悩みを聞き、教研への参加をすすめ、生の声を持ちより、出し合おう。

田中代議員　桜ヶ丘特支

対馬から本土復帰を果たしました。対馬支部では、支部代表者として本部と分会との連携に力を尽くしました。各分会は少数分会で厳しさはありますが、豊玉の人事問題は本部の尽力でよい形になりました。対馬を、離島を離れた今、あらためて対馬から組合の火を消してはならない、離島支部をなくしてはならないと強く思います。

寺田書記次長　翔南

翔南のとりくみを報告します。総合学科の関係もあってか翔南は非常勤教員や女性教職員が多い職場です。4月に非常勤の先生が加入しました。また、新採の2人にクレスコを紹介配布しながら声かけをし、学年での仕事でサポートし、じっくり時間を取って話しをして、1人が加入しました。さっそく歓迎会を行いました。加入した要因は「しつこかった。でも頼りになる先生がいて安心しています。」とのこと。

伊福代議員　島商

4月に転入してきた先生が加入しました。4月の全県分会長会・支部代表者会で作成した手紙を、職場に戻り手渡ししたところすぐに返事がありました。前籍校の頃より組合に入ろうかなと考えていたとのことですぐに加入届がでました。こんなにすぐに効果が出るとは驚いています。

生活向上、権利、民主的人事

野田代議員　佐中昼

佐中昼で特別な配慮を要する生徒の指導で一緒にがんばった先生が、通級による指導を導入する離島の高校に転勤になった。特別支援学校から研修交流人事で佐中昼にきて2年。本人は特支に戻ると思っていたようだが…。通級による指導で専門家が必要なのだろうが、「専門性」を確保するためにはルール作りが必要。県教委に確認をしてほしい。

鈴木代議員　鳴滝夜

人事に関連して。商業科、家庭科、芸術科の先生方の2回目の離島勤務が話題になっていたが、今回の異動ではどうだったのだろうか。異動方針に反するような2回目の離島勤務が必要になるのは、年齢構成の問題があるのではと考えている。新採用を増やすこと、若い人の採用を増やすことを本部として強く県に要求してほしい。

民主教育確立、教育条件整備

野田代議員　佐中昼

佐中昼が1学級減になり、学年1学級になる。障害者差別排除法が成立する過程で、昼間部の果たす役割も大きくなると考え、配慮を要する生徒への対応を研究し、評価もいただき、自負もある。減らすべきでないのに、強引に機械的に減らしたのに強く怒りを感じる。納得できる説明がほしい。クラス減や統廃合のあり方について開かれた議論を県教委に求める。

濱本代議員　佐中夜

関連して、佐中夜ではエンカレッジコースが来年度より導入される。新開発表の2日前に職員には説明があった。夜間部だが、午後にエンカレッジコース普通科1、商業科1が開講され、夜は今まで通り夜間部普通科1の授業がある。配慮を要する生徒が多いのに定員は1クラス40人。機械的な変更については怒りを感じる。

錦戸代議員　西陵

主権者教育の一環として、大学受験の集団面接の形式で、奨学金の問題を生徒自身に考えさせた。奨学金問題については、昨年度の冬の教研で扱った。生徒も保護者も大きな関心をもっている。PTAに署名の協力をお願いしたのはとてもよかった。多くの生徒を大学等へ送り出すが、数百万円借金をかかえて卒業するのは大きな問題。課題は残っている。

井川代議員　諫商

本校の音楽室はすぐ側に民家があり、部活の音に神経を使い、暑さの中で窓を閉め切って練習を行っている。生徒は汗を流しながらがんばっているが、大変であるし、心配である。冷房の設置について事務長も必要と考えているが、許可が下りないとのこと。他の学校や小・中ではどうなのだろうか。

地引代議員　希望ヶ特支

本校でも、校長交渉で特別教室へのエアコンの設置を強く要望しましたが、県が認めていないという一言で却下されました。

東川代議員　佐工全

小学校のPTAの役員として子どもの健康や教育効果を考えエアコンの設置をPTAで話題にした。「扇風機でがまんして」と、PTA会費で扇風機の購入設置で終わった。

伊福代議員　島商

臨採の先生から、採用試験における「加点制度」について質問があった。「特定の資格、免許状等を有する人は、加点申請をすれば1次試験で最高10点を加点する」という制度だが、十分に周知されているのか。資格によっては大学受験の時点で知っていなければとれないものもあり、教員採用試験を受験しようと決めた時点では遅いという場合もあるのではないかと考える。

中鋪代議員　壱岐商

給付奨学金についてPTA役員会で会長さんと組合から、署名の趣旨や協力の呼びかけが3回あった。全体会や学年PTAで回覧をして、保護者を巻き込んだとりくみとなりよかった。長時間勤務については管理職と話しができ、校長が早く帰るよう声かけをして、超勤が減っているかなと感じている。

富永代議員　川棚

学生支援機構の給付奨学金、従来の予約奨学金、県の奨学金と目白押しでバタバタしている。経済的に余裕のない家庭が多く、奨学金の希望者は多い。奨学金によって手続きに違いがあり、業務は煩雑で仕事量が明らかに増えている。奨学金の業務のために期間を区切って人を雇って欲しい。

濱本代議員　佐中夜

職集で、定期考査中の校外巡視のやり方が変わったことについて不満の声が出た。それまでは校外巡視が終了したらそのまま帰宅してよいとなっていたが、「学校に戻ること」となった。職員会議で発言したとき校長の顔色が変わったが、元に戻すということにはなっていない。先生方から感謝されたが、学校が息苦しくなっている。思ったことを自由に言える職場にしたいので、これからも発言していきたい。

錦戸代議員　西陵

本校では、定時退校日を年間10日設定し、平日は7時半には管理職が率先して校舎への施錠の声かけをして、先生方にも帰宅をうながしている。県教委も超勤縮減にとりくむ姿勢はあり、長崎新聞でも教職員の働きすぎが扱われた。各分会でも超勤縮減を具体化しましょう。

発言ありがとうございました。